

1 情報教育への取組について

1 はじめに

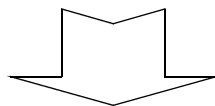
本市教育研究所の情報教育調査研究は、平成19年度より開始、本年度で7年目となる。今年度は、児童生徒を取り巻く社会状況から情報モラル教育に重きを置いて情報モラル育成資料集を活用して授業実践を行う等研究を進めてきた。けやきネットにおいては、活用法の紹介と活用促進を進めてきた。教職員の校務の負担軽減を目指した校務の情報化についての研究も継続している。

今後も「情報教育推進計画」を基に児童生徒が情報を主体的に選択・活用できる能力や情報モラル等の育成を図るとともに、研修をとおして教員のICT活用指導力の向上を図ります。また、教職員の校務の負担軽減のためにも、教育の情報化に取り組んでいきたい。

2 下野市情報教育推進計画

○ 基本方針及び研究推進の方向性

<p>(1) 情報モラル教育の計画的推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○情報モラルに関する授業の実践(授業公開) <ul style="list-style-type: none"> ・情報モラル育成資料の活用 ・情報モラル教育実践ガイダンスの活用 ○啓発リーフレット(指導資料)の作成 	<p>(2) PC活用技能の習得強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ○PC操作時間確保の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ※小学校中学年で文字入力などの基本的な操作を身につける。 ※小学校高学年で情報モラルを身につける。 ※中学校で情報活用能力を身につける。
<p>(3) eラーニングの活用推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○eラーニングの研究(研究指定) <ul style="list-style-type: none"> ・4中学校による活用推進(活用場面の工夫, 活用実態の調査) ・継続活用(石橋北小学校, スマイル教室) 	<p>(4) ICT機器の活用による授業実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ○日常的なICT機器の活用実践 <ul style="list-style-type: none"> ・PC, 電子黒板, 薄型テレビ, デジカメ, プロジェクター, 実物投影機等 ※特に電子黒板の活用。
<p>(5) 校務処理の電子化への取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○指導要録の電子化 ○校務日誌の電子化 ○出席簿等の電子化(小学校) ○すぐメールの活用 ○事務手続き関連「たすかるくん」の活用 	<p>(6) セキュリティの確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ○情報漏洩の防止…特にUSBについて ○保存データのバックアップについて ○サーバーの管理
<p>(7) 市教育情報ネットワーク(けやきネット)の効果的活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ○校務支援ソフト(WinBird)の活用 <ul style="list-style-type: none"> ・回覧板, 掲示板等の活用 ・児童名簿管理の活用 ・各種テンプレートの活用等 ※学校代表アカウントⅡにはテンプレート作成の権限が与えてあります。(情報教育担当者が管理してください。) ※学校代表アカウントⅢは保護者アドレス登録用, 学校アカウントⅣは職員登録用です。 ○ホームページの更新(Webコア) 	



情報モラル教育研究部会	けやきネット活用研究部会	事務部門強化部会
<ul style="list-style-type: none"> ○情報モラルに関する授業の実践(授業公開) <ul style="list-style-type: none"> ・情報モラル育成資料の活用 ○啓発リーフレット(指導資料)の作成 <ul style="list-style-type: none"> ・啓発資料の収集 ○情報モラル教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○WinBirdの活用促進 <ul style="list-style-type: none"> ア)けやきネット活用アンケート イ)児童・生徒情報の登録 ウ)帳票テンプレートの活用 エ)すぐメールの活用 ○学校HPの更新 ○テンプレートの作成(Winbird用) 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校事務情報の共有化推進 ○学校間格差のない事務処理の研究 ○「たすかるくん」の機能充実と活用推進

2 各部会の取組

1 けやきネット活用研究部会

(1) 研究テーマ

けやきネットを活用した「教育の情報化」の推進

(2) 研究内容

① Winbird・一斉メール・Webcore を活用した校務情報化の推進と情報の発信

12月に市内小中学校の情報担当者を対象に、Winbird や一斉メール、Webcore の使用状況と改善点等に関するアンケートを行った。各機能に対する意見は以下に示すとおりである。(一部抜萃)

【Winbird】

- 本校では本年度より winbird 上で出欠管理，学校日誌作成を行うようになり，作業効率が大きく向上した。
- 教育委員会からの情報提供などが職員に確実に伝わりやすい。
- 電子データのやりとりがしやすい。「メッセージ」は相手を読んでもくれたか確認しやすいのでありがたい。
- ペーパーレスでの校務なので，仕事の効率がとてもいい。よく開くのは「メッセージ」「メール」である。

×他校の先生に「メッセージ」を送信しても，数週間未読のままのことがあった。1日1回は見ることを呼びかけてもよいのでは。→再度，学校で声をかけていただきたい。

×年度途中で，デザインが少々変更されたが，以前のデザインのほうが見やすいと思う。最初の画面で何の操作もせず，新着メッセージが分かるようになっていればよいと思う。→レイアウトの変更はできるので，マニュアル等を参照し，操作していただきたい。

×メッセージやメールが届いたときは，何らかのアイコンでお知らせがあるといいなと思います。

×一度送ったメッセージを少し直すだけでいいときがあるので，再編集機能があるとよい。

【Webcore】

×ウェブサイト作成に関しては，はっきり言うと使いにくい。登録するのにクリック数が多すぎる。更新数を増やたいのに，作業に時間がかかり，それが弊害となっている。レイアウトの自由度もなく，学校の独自性も出づらい。ブログ感覚で気軽に掲載できるようであれば，更新数は増えると思う。

×掲載の承認については校長のみなので，いいと思う。しかし，教職員が，自校のウェブサイトを開覧する機会がないので校内で啓発する必要もあるな，と感じる。

× webcore についてですが，写真を一括で貼り付けられると作業効率が格段にあがるのでお願いしたい。(他多数)

×以前登録した写真を一括で消す，または自動で消える方法があれば知りたい。

【一斉メール】

○スマートフォンからも配信できるので，とても便利だった。特に，宿泊学習の様子を保護者へ画像つきで配信できたのは好評だった。

×保護者からのアドレス変更を受け付けた時，個別にテストメールを配信するが，きちんと届いたのか分かるような機能があるとよい。

上記のアンケート結果を見ると，Winbird については，使用感等含めて多くのユーザーが満足している。特に，教育委員会や他校との連絡調整に関しては，今やなくてはならない機能として，活用が図られているといえる。また，本年度から始まった出席簿の電子化については，出席管理の煩わしさが減り，多くの教職員から支持を得ている。また，Winbird については，1月に情報教育主任研究会において，Winbird の開発スタッフに来てもらい，機能充実・改善に関する要望を行った。以下にその様子を記載する。

- ★行事の登録については、一括でエクセルデータから登録することができるが、逐次の変更についても一件一件入力しないで、複数の行事について一括で登録できるようにして欲しい。→現在そのような機能はないが、データを簡易に入力できる機能があるので、そちらを代用して欲しい。
- ★操作マニュアルのようなものがあると、他職員に使い方の啓発をしやすい。→検討させていただきたい。
- ★前期後期の切り替えが月の途中で来るので、月途中での集計ができるようにして欲しい。→既にそのような仕様になっている。
- ★ウインバードのメッセージで、複数校をまとめて送信した時、未読の学校が特定できないのが不便に感じる。→学校単位での未読の特定は、必要性がないように感じるので現在の仕様でお願いしたい。
- ★メッセージの開封日が更新されてしまうので、最初の開封日にして欲しい。→社内で確認検討させていただきたい。
- ★出欠入力画面のコントラストが同系統で見にくいところがあるので、改善して欲しい。→色を濃くすることで対応させてもらいたい。

Webcore については、写真登録と操作の複雑さにおいて、特に改善を要するという多数の意見が寄せられている。この点が HP 作成への意欲を低め、負担感を増長させていると考えられ、早急な改善が必要である。本年度、Winbird の開発担当者に改善点の要望を行ったが、次年度は Webcore の開発担当者にも改善要望を行いたいと考える。

② 学校連絡一斉メール「すぐメール」の活用推進

学校連絡一斉メール（以下すぐメール）については、昨年度、導入されたものである。1 年を経過し、様々な場面で学校から保護者への連絡手段として活用されてきた。問題点としてあげられていることは、登録及び更新について、完全に保護者に一任している。そのため、新年度になると、登録内容変更のお知らせを行ったり、登録内容の確認を情報教育アドバイザーや情報教育担当者が行う必要があった。それらが過度の負担を要するものとなっていた。そこで、それらの負担を軽減する目的で、エクセル VBA を用いファイルを作成した。紙面の都合上、細かい操作や機能については割愛するが、このファイルの機能面での大きな特徴は、

- ア 保護者が登録したデータを学校で使用している名簿に紐付けする。
- イ アで作成したデータをすぐメールに登録できるデータに成形し、出力する。

である。保護者が登録した児童生徒名をキーとして学校の名簿に紐付けをしている。これを行うことにより、新年度に学年を一つあげる作業を行うだけで、保護者に更新を呼びかける必要も保護者が更新した後のデータのチェックも不要になる。操作に慣れれば、担当者 1 人で 10 分もかからずに、作業を終了させることができる。

本年度、11 月と 1 月の研究会でファイルの紹介を行った。また、何校か協力してもらいファイルの出力まで行ってもらった。協力していただいた情報教育主任の意見を紹介する。※太字部分

今までの年度更新作業で、不便と感じていたのは、登録件数と進級処理の把握が、学級一覧を打ち出して手作業でチェックしないといけないことで、これを各担任にお願いをしていた。また、進級処理が済んでいない保護者への呼びかけは、担任から連絡を行わなければならない、何度も連絡をしなければならない家庭もあり、担任の手をかなり煩わせた。このシステムは、登録状況の把握と進級処理を 1 人で行うことができ、大きく負担軽減となる。また、保護者に繰り返し連絡する必要もなく、家庭と学校間の煩わしい連絡業務をなくすることができる。以上のことから我々にとって喜ばしいプログラムである。

最後に、すぐメール登録の課題としては、新入生のデータをどのように収集するかである。新入生については、これまで同様、保護者に登録を呼びかける文書を配布し、一度保護者に登録してもらうのか、それとも学校で保護者からデータを集め、ファイルに登録するのか、どちらが効率的なのか、今後、研究を深めて行きたいと思う。また、中学校に進学する場合、保護者の同意を得てデータを中学校へ送れると進学に伴う事務作業の軽減につながると思われ、次年度以降の検討事項に付け加えたいと思う。

2 情報モラル部会

(1) 研究内容

急速な情報化の進展に伴い、私たちを取り巻く生活環境は日々発展している。特に、インターネットをはじめ、ネット社会においては、児童生徒の情報モラルおよび、そのリテラシーの高揚が求められている。そこで、本部会では、情報モラル教育の推進のため、小学校と中学校で情報モラルに関する授業を実践し、児童や生徒への指導をどのようにすればよいかを研究することにした。また、近年、全国的に情報モラルに関する様々な問題が起きているので、児童生徒への情報モラルの啓発資料を作成することにした。

(2) 授業実践および情報モラル啓発資料の作成

①南河内中学校の授業実践

学級活動：「ネット社会でも被害者や加害者にならないために」

(指導案は、栃木県情報モラル育成資料集のP.34～35)

ア 生徒の変容・気づきについて

- ・真剣にDVDを視聴していて良かった。
- ・子ども達の素直な反応が出ていた。
- ・「みんなが止めれば良かった。」「直接言う(face to face)」等良い意見が出ていた。
- ・PCやスマホ等便利な部分ばかりが見えているのが現状である。授業が進むにつれて、そういう所が全部ではなく、情報発信には気をつけないと取り返しのつかないことになるということが理解できていた。



(南河内中学校での授業)

- ・なぜ起きるのか、どうすれば良いかをきちんと理解することができていた。
 - ・自由に発言する雰囲気が良かった。
 - ・書いてしまった人、周りの人の軽率な気持ちに着目している生徒が多い中、裏サイトの存在や携帯を保持する年齢の早さに着目している生徒がいたことは良かった。
 - ・DVDを視聴した後、子ども達の静けさの中に現実の恐ろしさを実感したのではないかと思います。無知から始まるいじめを理解できた。
 - ・解説を見ることでより現実、実生活を理解できていた。
 - ・自分の意見を書く時には、なかなか書き出せずいた生徒もグループの中で話し合うことで考えを深めていた。
 - ・DVDの解説から書き込んだ人が特定できることには驚いた生徒もいた。
- #### イ 授業展開の良い点
- ・良い流れでした。終末の「携帯電話を、遠ざけたり、シャットアウトしたりすることは難しいので、考えながら思考しながら活用する」というまとめが大変良かった。
 - ・導入とまとめのつながりがあった。導入と終末のつながりが良かった。
 - ・グループ発表では、多様な意見が出ていたが、よく受け止めて返していた教師の姿勢が良かった。
 - ・DVDの視聴により、考えを深めることができた。
 - ・話合いが活発に行われていた。生徒の言葉をうまくまとめていた。
 - ・顔の見えないコミュニケーションについても触れたのが良かった。
 - ・話合い活動がうまくいっており、多様な意見が出てきて、良かった。
 - ・学級経営の良さのおかげでとても意見が多数出ている。
 - ・「DVD⇒思考⇒説明⇒まとめ」の流れで子どもの思考の深まりが見られた。
 - ・話合いの時間が余裕を持って設定されていたように感じた。生徒達が自由に意見を交換していて良かった。
 - ・インターネットの利便性、必要性を認めた上で危険性について注意を促す形でまとめたので良かった。

- ・「誰が悪いのか」という視点ではなく、それぞれの立場でどのように考えて行動し、どのように苦悩しているか一人一人よく考えていた。話し合いもしっかりできていた。
- ・発表の際、2つの内容を考えさせたため各ペンの色を変えさせたのは見やすかった。話し合いも順序立てて様々な意見が出ていて良かった。
- ・DVDの内容を書いているのを見て回りながら、いい意見には○を付けてあげていて、その項目で指名していたので、生徒は自信をもって発表できた。

ウ 授業展開の改善点

- ・具体的に利用方法など自分の考えを深められて良かった。
- ・教師のまとめの話で「ネットは良い点、危ない点があり、これからの時代みんな関わりを持たざるを得ない」という話は良かった。
- ・匿名性に触れたが、昨今飲食店等でふざけた写真を投稿した結果、本人自身が大変なことになっている事実を伝えても良かった。
- ・最後に授業から各自が考える時間がある程度とれると良かった。
- ・意見を個人でまとめてから話し合いをした方が良かった。
- ・学級活動なので、一人、一人が考えたり、思ったりして自己決定した内容を取り上げて発表させても良かった。(人ごとにしないために)
- ・生徒達にも同様の「中学生のスマートフォンの不安」のアンケートをとっても効果的だったかもしれない。また、ネットトラブルの身近な例を示しても良かったと思う。
- ・振り返りの際に自分の生活とリンクさせてインターネットの利用について考えられると良かった。話し合いの時間を短縮すると後半に余裕ができると思う。
- ・班でまとめた発表用の字が見えなかったのが残念であった。

エ 活用資料は効果的であったか

- ・DVDの内容は、中学2年生に適していた。また、迫るものがあり、視覚的效果は大きかった。言葉遣い等リアリティーがあった。真剣な表情で視聴している生徒がほとんどだったので、生徒の心にヒットする効果的な内容だった。
- ・ドラマを見ることで話をよく理解できた。内容として身近なものだった。
- ・現実に即した生徒達の個々に訴えるよい映像資料であると感じた。
- ・解説編はいい感じで生徒も気をつけようという気持ちになる。
- ・アンケートの資料は、もう少し大きい方が見やすかった。
- ・ライン等、年々環境が新しくなるので、対応した新しい資料が必要である。

②情報モラル啓発資料の作成

栃木県教育委員会が作成した情報モラル育成資料集の情報モラル指導カリキュラム表に基づき、小学校低学年用、小学校中学年用、小学校高学年用、中学校用の4つ啓発資料を考案した。

(3) 成果と課題

○今回の授業は、情報教育に詳しい先生、得意ではない先生に関係なく、どの先生でも指導できる内容だった。今現在の情報機器やラインなどのSNSに直接合わない展開もあるが、内容や思い、願いは同じなので、積極的に活用すべきである。また、本教材は、情報モラルの授業の際に活用している先生が多く、とてもよい教材の活用であった。

●情報モラルの啓発資料が考案できたので、今後は児童生徒への配布の検討が課題である。また、児童生徒を育てる教師や保護者は、情報化の進展の良い点とともに、児童生徒への様々な影響についても考える必要がある。さらに、教師は、情報モラルに関する指導力を高め、情報モラル教育の大切さを児童生徒や保護者に啓発し、意識の高揚を図る必要がある。

スキルアップ ワンポイント講座

※ 教育研究所情報発信誌「KEYAKI」に掲載した、ワンポイントからの抜粋です。

情報モラル～携帯電話の落とし穴～

9月からLINEのID検索年齢認証が開始されました。企業努力も始まったようですが、世の中では、Twitterへの悪ふざけ写真投稿や広島でのLINE殺人告白など使用者のモラルが疑われる事件も増えてきています。最近の携帯電話、特にスマートフォンでの問題をいくつか挙げてみます。

(1) LINEのID検索年齢認証の抜け穴

Android端末では、LINEのID検索が18歳未満ユーザは検索できないし検索されないようになりました。ただし、iPhoneはまだ開始されていません。また、電話番号での登録やグループに招待されることで登録する手段は残されています。

(2) スマホのロックについて

最近のいじめは学校や親の目が届かないSNSに移動している傾向があります。また、思春期を迎えた子供は、家族よりも友人とのコミュニケーションを大切にしがちで、スマホにロックをかけることが多いです。ふだんから大人と話し合える雰囲気を作り出し、子供の理解を得た上で、親がロックを解除できる環境にしておくといえます。

(3) クレジットカードの高額請求トラブル

アプリの購入、ゲーム内通貨で思わぬ出費をしてしまうことも。親のクレジットカードを利用させていませんか？子供が勝手に利用していた事例もあります。

(4) Twitterに悪ふざけ写真を投稿すると。。

掲示板が炎上すると「炎上のまとめサイト」に載ってしまいます。就職や結婚の調査で名前検索されると人生の汚点にもなりかねません。

(5) Facebookの「いいね！」が犯罪荷担？

イイ話だと思って「いいね！」をクリックするといかがわしい広告に投稿内容を差し替えられていることも発生しています。

ネットのサービスが多様化し、ネット犯罪が巧妙化してゆく分、「これだけ気をつけていれば大丈夫」という万能薬は存在しないといえます。また、手軽に、顔も知らない大勢の人と関係を結べ、その影響は未来永劫続くかもしれないのです。常日頃から子供と話し合う場を設け、考える力、状況を判断できる力をつけてゆくことが重要といえるでしょう。

※ [スタモバLAN](#) (携帯電話でのメール送受信やプロフの作成・閲覧が体験できます。授業で使ってみてください。)

情報モラル～「ネット依存」、「ネットいじめ」とLINE～

今年8月に厚生労働省は「ネット依存症」の中高校生が全国で51万8千人に及ぶとの推計を発表しました。「ネット依存症」の判定は以下の質問に「はい」が5項目以上ある者とされています。

- Q1 インターネットに夢中になっていると感じるか
- Q2 満足を得るために、ネットを使う時間を長くしていかなければならないと感じるか
- Q3 使用時間を減らしたり、やめようとした時、うまくいかなかったことが度々あったか
- Q4 ネットの使用をやめようとした時、落ち込みやイライラなどを感じるか
- Q5 意図したよりも、長時間オンラインの状態であるか
- Q6 ネットのため、大切な人間関係、学校、部活のことを危うくしたことがあったか
- Q7 熱中しすぎていることを隠すため、家族や先生にうそをついたことがあるか
- Q8 嫌な気持ちや不安、落ち込みから逃げるためにネットを使うか

「睡眠時間が6時間未満」とした人や「体調が悪かった」とした人の割合はネット依存症の人のほうが、ネットに依存していない人と比べて割合が1.6～2.7倍高かったとのことです。特にLINEでは、自分が相手からのメッセージを読むと相手に「既読」の文字が表示されるので、すぐ返事をしないといけないという心理が働き、ネット依存の傾向が強くなる原因となっています。また、LINEでの「ネットいじめ」も増加しています。特に仲間内で文字や写真をやり取りできる「グループトーク」機能に関するものが大半を占めており、その内容は、友人同士で作ったグループにアクセスできないように突然設定され、仲間外れにされる。(運営会社がグループのだれが締め出したのかが分かるようにしたため減少傾向) 相手が嫌がる写真や動画を同級生に配り、笑いものにする。前述の「既読」がついたのに返信が来ないので、無視したりいやがらせをしたりする。LINE IDを出会い系掲示板に書かれ、知らない人からメッセージが多数届く。などの例があります。しかも、グループ内の通信であるため、外部の目が届きにくく「ネットいじめ」が見つけにくくなっています。学校でも、携帯電話やスマートフォンの基礎知識を身につけ、子供たちに危険性を教え一緒に考えてゆくことが必要と思います。